

私たちの町の文化財

■第3話 花岡山陸軍墓地の謎

明治9年（1876）10月24日、廃刀令などに反発した士族の反乱一神風連の乱がおこりました。花岡山中腹にある陸軍墓地には、この乱で斃れた種田政明司令長官以下、熊本鎮台兵116名の墓があります。今回は、この墓地の謎を紹介します。

その一つは、墓＝死者の数です。熊本鎮台側の死者数は60といわれ、乱後の11月25日、当時の熊本県庁が明治政府に宛てた報告でも「数十名」となっています。ところが実際の墓＝死者の数は116。これには次のような理由があったと思われます。それぞれの墓石には被葬者の階級が刻まれています。正兵（見習い兵）・軍医・会計吏員など非戦闘員のものが少なくとも39名分あるのです。県庁の報告は、それを差し引いたものなのでしょう。もう一つ。それは墓石の大きさです。明治7年（1874）、陸軍省布告により下士官や兵卒の墓石の大きさが規定されました。ところが花岡山陸軍墓地の墓石をみると、その規定よりも5～7cm高く、明らかに規模が大きいのです。これは、非業の死を遂げた被葬者たちに対する配慮によるものと思われます。

外部に対しては、嘘はつけないけれど被害をなるべく少なく報告したい。内部に対しては、死者をなるべく手厚く葬ってやりたい。花岡山陸軍墓地からは、そんな人々の思いが伝わってくるのです。

熊本市文化振興課 美濃口雅朗氏

公式発表は被害を少なく
でも、亡くなった方に対
しては手厚くか……
分かるような気がする……
モン

